

見えない調味りよう

上えつ教いく大学ふぞく小学校

三年 池田 菜生

「お母さん、大じょうぶ？」

つかれがたまって、お母さんがねこんでしまいました。私は、大すきな高菜むすびを作って、お母さんに元気を送ることにしました。「ばあちゃんのおにぎり、作りたい。」

私は、おばあちゃんに電話して、おばあちゃん自まんの高菜ふりかけの作り方を教えて

もらいました。高菜ふりかけで作ったおにぎりは、私のしょうぶメシです。水泳大会の時高菜むすびを食べたら力が出て、一とうをとり、ることかできた、お守りむすびです。

私は、おばあちゃんに聞いた通りのざいりょうを用意しました。高菜のつけ物を水であらってギョーツとしぼったら、目に水が入りました。目かしみで泣きそうになっただけど、ねているお母さんを見たら、いたみが消えませんでした。高菜をザクザク切って、フライパンで

いためます。いつもなら、油かはねてこわいからお母さんにやってもらうことも、今日は自分で出来ました。仕上げに白ごまをまぜて出来上がりです。私はすぐに、高菜むすびを作って、お母さんに持って行きました。

しばらくして、お母さんが高菜ふりかけを作っていました。見ていたら、私が入れてない、しょう油やおさけ、しらすにかつおぶしまで入れています。私は思わず、  
「この間の私を作ったふりかけ、まずかった

んじゃない？」はい入れわすれてる」と言いました。そうしたらお母さんが、  
「やさしい味で、とってもおいしかったよ。見えてないだけで、いっぱい入ってたよ」と、笑って言いました。

「お母さん、元気になあれ」ねかいをこめてにぎった、高菜むすび。私の思いか、お母さんに伝わっていました。何だかちよっぴりマジシャンになった気がしました。  
「もっとうでをみかくぞ!!」